

第15回 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会 議事録

日 時：平成31年3月20日（水） 午前10時～11時40分
場 所：秋田市役所本庁舎5階 第2委員会室
委員の定数：13人
出席委員：10人

1 開会

2 議事

(1) 平成30年度事業報告および平成31年度の取組について

資料1に基づき、事務局から説明を行った。

委 員 長	議事の(1)「平成30年度事業報告および平成31年度の取組について」に対して、ご意見やご質問等はないか。
委 員	エイジフレンドリーシティ通信のサロンの紹介が良いため、可能であればまた続けてもらいたい。掲載時に、紹介するだけでなく、お近くのところに皆さんもどうぞという一行を加えていただけると参加しやすいため、その辺をアピールすると良い。
委 員	「秋田市暮らしに役立つサービス」は大変良いが、実際に困ってる要介護1とか2という方は、冊子を置いているコミセンに行くことは難しいと思う。実施済みかもしれないが、民生委員などに渡し、独り暮らしや身寄りのない方に届けられるような体制にしてもらえると良い。
事 務 局	民生委員には3部ずつ配布しており、自身の活動用に1部、また市役所などに来られない方のために配布できるよう2部を渡している。
委 員	エイジフレンドリーシティ推進事業のWHOの選出おめでとうございます。WHOの意向に沿った形で取り組み、800を超える都市の中から11都市に選出されたというのは、一つの良い成果が出されたのではないかと思う。職員の取組の成果が実り喜ばしいことであるが、広報には出ているのか。
事 務 局	4月19日の広報あきたに掲載依頼済みであり、その他にホームページやフェイスブックにも掲載していきたいと考えている。
委 員	いつ選出されたのか。

事務局	<p>昨年の6月か7月くらいにWHOから連絡をいただき、レポートのやり取りを行った後、最近WHOのホームページで発表になったところである。</p>
委員長	<p>どういう基準や特徴があり、秋田市が選ばれたというポイントがあれば、教えていただきたい。</p>
事務局	<p>平成30年度取組報告の2の(1)で申し上げた4点が大きく取り上げられているが、特にパートナーの取組は、実施しているところが少ないということで評価されている部分はあると思う。取組だけでなく、秋田市が何を大事にして進めているか、今後何を目指すかなどの方向性も合わせての選出かと思う。</p>
事務局	<p>補足する。WHOがどのような基準でこの11都市を選んだか、実はよく分からない。おそらく、点数化ということはしていないのではないかと思う。今の段階で800を超える都市がエイジフレンドリーシティグローバルネットワークに登録しており、すべての取組を把握しているとは考えづらい。おそらく一つのきっかけになったのは、AARP（全米退職者協会）という団体が秋田市を訪れて、取材をし、機関誌に秋田市の特集が掲載されたことではないかと考えている。AARPはWHOとも連携をとっている大きな組織であり、情報提供があったかと思われる。秋田市が実施しているコインバス事業やパートナー事業、それからハード面では新庁舎。こうしたものが欧米人には取組が推進していると受け止められたように思う。昨年度、参加した国際会議で、WHOの方がワークショップ等で秋田市の紹介をしてくださった。市民への認知度は苦戦をしているが、外国でむしろエイジフレンドリーシティとして認知していただいている状況である。</p>
委員長	<p>海外で取り上げられることによって、日本で評価されるということもあるので、本当に良かった。</p>
委員	<p>これからの戦略も考えていかなければならないと思うが何かあるか。この選出は日本でも秋田市だけのことであり、全国的にも取り上げられてよいこと。推進委員会の中でも後押しできるようなことはあるか。</p>
事務局	<p>秋田市以外に日本からグローバルネットワークに参加している自治体が、神奈川県をはじめ24市町ある。神奈川県主導でこのたび、国内におけるネットワーク化が実現しそうである。こういったことから、国内でさらに盛り上がっていく可能性もあり、他市町村とも連携しながら、新たな事業を展開していきたい。</p>
委員	<p>連携もいいが、秋田市独自としては。</p>

事務局	秋田市がエイジフレンドリーシティに取り組んで約10年であり、4月からは11年目に突入する。2番目に参加したのが、兵庫県宝塚市で、宝塚市は3年くらいである。神奈川県は黒岩知事が東洋医学の未病を掲げており、県のすべての市町村をエイジフレンドリーシティネットワークに参加させると宣言している。その勢いもあり、この2、3年でぐっと増え、国内で現在24市町が参加した。先日、神奈川県主催の国内の研修会があったが、その中で感じたのは、秋田市は10年間の積み重ねがあり、取組として言えるものがあるが、このままでいくと神奈川県一帯に追いつかれるおそれがある。秋田市独自の取組については、人材不足・担い手不足、高齢者の就業支援、居場所づくりなど、どこを優先課題として取り組んでいくか、委員会を通して皆様からもご意見いただき、次年度以降の強化事業として集約していきたい。ぜひご意見を頂戴したい。
委員	31年度の取組の3「エイジフレンドリーシティ普及啓発事業」の2行目、高齢者の元気づくりのために自らの楽しみを増やし、社会参加につながる、シニア映画祭は良いので続けていただきたい。フレイルとの関係でも運動そのものよりも、社会参加したほうが、より何倍も高い効果があると出ているので、高齢者生活支援体制整備事業とも合わせながら、集いの場、通いの場を町内会の協力も得ながら作る方向がよい。また併せて、パートナー企業の中でもそうした場を開設してくれるところがあると思うので、できればいろんな手段で、集いの場を多くしてもらえれば、閉じこもりがちな高齢者を少しでも少なくできる。そういった介護予防という意味でも、ぜひ取り組んでみたいと思っている。
委員長	ほかに何かご提案はないか。
委員	31年度の取組の中の、パートナーづくりのポスター作成の完成はいつ頃か。障害者を対象に美容院を経営し、市内の施設に出向いている業者があるが、まだパートナーになっていないと思われるため、この方に紹介したい。
事務局	まだ具体的に決まっていない。新年度どのようなポスターを作るかも考え、スピード感を持って、早い段階で市内に配布を行いたい。
委員	暗い話になるが、子どもの虐待がクローズアップされている中、高齢者の虐待も増えてきている。虐待を防止するための広報や取組、パートナーの方に通報してもらおうなど、どこでやったら良いか。エイジフレンドリーシティの中でできることはないのかと思った。
事務局	パートナー事業者に通報していただくというご提案も非常に良いと思う。今はそこまで意識して活動していないが、そういったことも視

	野に入れながら、パートナーに協力を呼びかけるのは非常に有用かと思う。
事務局	高齢者の虐待に関する部署は同じ長寿福祉課の中にあり、関係機関と連携もしている。担当者からは、明らかな虐待でなくてもそれが虐待にあたるケースが多いということを聞いている。よかれと思ってやったこと、例えば、お金の管理ができないため私が代わりに行うという行為が搾取にあたるなど、ぎりぎりのところもかなりあるようなので、そういったものを知る機会、これはもしかしたら虐待かもしれないという意識を持っていただくことの普及啓発も必要かもしれない。パートナーが、この人は痣をつくっているから虐待じゃないか、そうでなくても、話を聞いて気になったときにちょっと相談するというような空気を醸成していく、そういう社会をつくっていくことは非常に重要だと思う。担当者と連携してどのような周知、広報がエイジフレンドリーシティの中でできるのか、来年度以降の課題の一つにしたい。社会福祉協議会とも連携しながらやっていきたいと思う。
委員	認知症の義母が徘徊するため、嫁が紐をつけたりするの、絶対だめですね。
委員	それは虐待。施設でベッド柵をつけるとそれも虐待だとみなされる場合がある。虐待の定義、線引きが難しい。世間一般的に、こういったことは虐待にあたるのか、そういう話をオープンにしたほうがいいのか。子どものほうでも、しつけか虐待か分からない。
委員	やりたくてやっている訳ではないが、口で言ってもなかなか伝わらなくて、ガツと怒ったりというのはある。では、どうしたら良いのかも合わせて、セットで考えていければいいのかと思う。
委員	認知症サポーター養成講座であれば、認知症に対する対応が分かる。そういうことが広く市民に伝われば対応の仕方も変わるのではないか。
委員	どうしたらいいかと、どこに相談に行けばいいかの相談機関や気軽に相談できるところが分かれば良い。
委員長	来年度以降の取組としてご検討いただきたい。

(2) 秋田市エイジフレンドリー指標の実績値について

資料2に基づき、事務局から説明を行った。

- 委員長 議事の(2)「秋田市エイジフレンドリー指標の実績値について」に対して、ご意見やご質問等はないか。
- 委員 4-6について、勝平コミセンでいいあんべえ体操教室をやっている。教室は3時間あるが、体操そのものは1時間半、残り1時間半は井戸端会議という場合の捉え方は。また包括支援センターの支援を得ながらそれぞれの町内会で開いているサロンの中で健康体操をやっているところもある。そういったものも加えてもいいのかなと思う。もう一つ、5-1について、私たち老人クラブで、地元の勝平小学校1年生を対象に昔遊びをやっている。子どもたちは喜び、高齢者も元気をもらう。同じ小学校で、夏休みには小学1年生から6年生を対象に、保護者を含めてグラウンドゴルフをやっていたが、働き方改革のために、夏休みの間は先生方にご苦勞をかけるわけにはいかないということで中止になった。本当はやりたいが、良い方法はないものか。確かに働き方改革は必要だが、なにか良い方法があればと思う。
- 委員 4-2について、先月、社会福祉協議会のBブロック南部地区、Dブロック北部地区の2回に講演を頼まれた。50年間ボランティアを行った経験と難問に当たった時、どのように切り抜けていくか、また、高齢者がこれからどのような地域活動をするのかということを話した。集まる役員の方々は、教育関係の校長、事業所の社長などがおり、無理にではなく、前向きに任に当たっているという話だった。地域経験の豊富な方々、まだやれる人を発掘しながらまだ頑張ってもらわないといけないと感じた。そういうところで講演をし、またエイジフレンドリーのPRを5分くらいしているが、継続してPRしていかなければと思う。
- 委員長 ほかに、指標に関連して何かないか。
- 委員 5ページの訂正。6-3の照会先が、ボランティアセンターになっているが、シルバー人材センターにさせていただきたい。また、7ページのところに、高齢者の権利擁護対応とあるが、さきほどの虐待のケースも取り入れてもらえればありがたい。
- 委員 勝平の地域包括支援センターで、犬の散歩をする人を集めた認知症サポーター養成講座に参加した。徘徊している人に対する目配りなどもしている。
- 委員 私はエイジフレンドリーパートナーとして取組をしている。できるだけ高齢者には対話を重視している。身近に相談を受けて、解決策までの立場にはないが、心配事を聞くだけでも気持ちが楽になっているようだ。認知症の方でも相談に来てもらって、少しでも元気をつけてもらえればいいと思う。

- 委員 基本方針4「高齢者の社会参加を図ります」で、身体活動について、特別な運動などで体を動かそうというのはなかなか継続できない。健康秋田21計画でも運動しましょうとやっているが、昨年度は運動経験の実績が悪くなっている。保健所では市民に身体活動を勧めているが、ちょっと落ちてきていると考え、分析までいかないが、慣れが出てきて運動から遠ざかったということも考えられるのかと思う。そういう意味で、大変だとは思いますが、イベントや教室というものをどんどん続けていただければありがたいと思う。もう一点は、大学の公開講座についてであるが、美大が一気に30増えていることに、なにか秘訣はあるか。
- 委員 学生数に対して先生の割合が多い。その分、地域に出て行けるパワーやポテンシャルがあるのではないかと思う。フォンテやサテライトキャンパスでも行っている。
- 委員 全体の数字が122とかなり上がっているので来年は大変かと思う。秋田大学で42ですから。
- 委員長 特に内容やテーマ別というか、全体としていろいろあるものか。
- 事務局 国はこれからリカレント教育といことで、シニアも含めて社会の方がもう一度学び直すということを推奨する形になっている。おそらくそれは知識などを得てまた就労に結びつけるというような明確なものがあると思うが、今開かれている講座は、それよりももっと気軽に社会の方が何かを学んだり、社会参加をすることで幅広く開催されている講座を大学の方に照会してカウントしているという状況である。今後、もしかしたらこの部分が大きく変わっていく可能性があるのではないかと捉えている。
- 委員 県や市役所でいろんな催しをやっても男性はほとんど来ない。まず1割か多くて2割。ただ、高齢者大学だと5対5で、すごく男性が来る。ところが、場所を確保するのがなかなか大変である。
- 委員長 2ページの2-3のユニバーサルデザインタクシー導入については、29年は上がっているが、27年に下がっているのは何かあったのか。
- 事務局 割合にすると大きく減少して見えるが、車両数では、26年度から27年度でユニバーサルデザインタクシーが2両、福祉タクシーも2両と、合計で4両減少したものである。理由に関しては把握していない。
- 委員長 減り続けている訳ではないのでいいと思うが、確認であった。他に

なければ、議事（2）を終了する。

(3) エイジフレンドリーシティ推進戦略づくりワークショップ～中央地区編～の報告について

資料3に基づき、事務局から説明を行った。

- | | |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員 長 | 議事の（3）「エイジフレンドリーシティ推進戦略づくりワークショップ～中央地区編～の報告について」に対して、ご意見やご質問等はないか。 |
| 委員 | 秋田大学の学生にたくさん参加していただいているが、簡単に集まったのか。 |
| 事務局 | 実際のところ、集めるのに大変難儀した。 |
| 委員 長 | 大学全体に広報してもなかなか集めるのが難しい。授業や実習に抱き合わせてやるとやりやすいが、年度前に言っていたかかないとなかなか組み込めない。自由に参加する学生というのはなかなか難しい。早めに言っていただいて授業に関わらせる、また学生のボランティアグループに情報を流せるようにするなどであれば、より良いと思う。苦労して集めたようなところがある。 |
| 委員 | 秋田大学の地域文化学科の学生ですね。うちで関連するとすれば、看護や介護の学生もいる。 |
| 委員 長 | できれば、いろんな大学から参加いただいたほうがよい。 |
| 委員 | 1コマだと、1時間半程度の時間。非常に制限もある。参加できるものがあれば積極的に参加したいと思う。ただ、スケジュールの関係上難しいところがある。 |
| 委員 | 私は聴講生という形で参加させてもらった。学生の中には秋田県出身でない方もいて、私どもとは違った視点があり、目からうろこという発言が時々あった。 |
| 委員 長 | 若い人が入ると活気づくというのは確かにある。 |
| 委員 | 他県出身というのも大変良い。 |
| 委員 | 新屋の地域では美大の講義がたくさん回ってくる。子ども主体の祭りがあるが、昨年、秋大のほうから初めて学生さんと先生が参加して |

地域の人との交流を行った。

(4) その他

委 員 長	「その他」について、委員の皆様から何かないか。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none">・委員の辞任について・次回の開催時期について

4 閉会